

別添9

改正後			現行		
項目	運営管理指導要綱	備考	項目	運営管理指導要綱	備考
I 組織運営			I 組織運営		
1 定款・寄附行為	1 モデル定款・寄附行為に準拠していること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 19 年 3 月 30 日医政発第 0330049 号医政局長通知</li> </ul>	1 定款・寄附行為	1 モデル定款・寄附行為に準拠していること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル定款・寄附行為とは、昭和 61 年 6 月 26 日健政発第 410 号健康政策局長通知(以下、「61 年局長通知」という。)中定款・寄附行為例をいう。</li> </ul>
	2 定款又は寄附行為の変更が所要の手続きを経て行われていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法第 50 条</li> <li>(注) 定款又は寄附行為の変更に関し、届出で良いとされる事項について、届出をしない場合又は虚偽の届出をした場合は、20 万円以下の過料に処せられること。(医療法第 76 条第 1 号の 2)</li> </ul>		2 定款又は寄附行為の変更が所要の手続きを経て行われていること。	
2 役員 (1) 定数・現員	1 役員名簿の記載及び整理が適正に行われていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員名簿の記載事項は次のとおり</li> <li>① 役職名</li> <li>② 氏名</li> <li>③ 生年月日(年齢)</li> <li>④ 性別</li> <li>⑤ 住所</li> <li>⑥ 職業</li> <li>⑦ 現就任年月日・任期</li> </ul>	2 役員 (1) 定数・現員	1 役員名簿の記載及び整理が適正に行われていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員名簿の記載事項は次のとおり</li> <li>① 役職名</li> <li>② 氏名</li> <li>③ 生年月日(年齢)</li> <li>④ 性別</li> <li>⑤ 住所</li> <li>⑥ 職業</li> <li>⑦ 現就任年月日・任期</li> </ul>
	2 役員に変更があった場合は、その都度、都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長に届出がなされていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法施行令第 5 条の 13</li> <li>添付書類</li> <li>① 就任承諾書</li> <li>② 履歴書</li> <li>適正に選任されていることを確認することを要する。</li> </ul>		2 役員に変更があった場合は、その都度、都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長に届出がなされていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法施行令第 5 条の 8</li> <li>添付書類</li> <li>① 就任承諾書</li> <li>② 履歴書</li> <li>適正に選任されていることを確認することを要する。</li> </ul>
	3 役員として理事 3 人以上、監事 1 人以上を置いていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法第 46 条の 2 第 1 項</li> </ul>		3 役員として理事 3 人以上、監事 1 人以上を置いていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法第 46 条の 2 第 1 項</li> <li>61 年局長通知</li> </ul>

	<p>また、3人未満の理事を置く場合は都道府県知事の認可を得ていること。</p> <p>4 役員の定数は、事業規模等の実態に即したものであること。</p> <p>5 役員の欠員が生じていないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事3人未満の都道府県知事の認可は、医師、歯科医師が常時1人又は2人勤務する診療所を一か所のみ開設する医療法人に限る。 その場合であっても、可能な限り、理事2人を置くことが望ましい。</li> <li>・医療法第48条の2においては、理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超える者が欠けた場合は、1月以内に補充しなければならないとされているが、1名でも欠員が生じた場合には、速やかに補充することが望ましいこと。</li> <li>・医療法第42条の2第1項第1号</li> <li>・医療法施行規則第30条の35</li> </ul>		<p>また、3人未満の理事を置く場合は都道府県知事の認可を得ていること。</p> <p>4 役員の定数は、事業規模等の実態に即したものであること。</p> <p>5 役員の欠員が生じていないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事3人未満の都道府県知事の認可は、医師、歯科医師が常時1人又は2人勤務する診療所を一か所のみ開設する医療法人に限る。 その場合であっても、可能な限り、理事2人を置くことが望ましい。</li> <li>・医療法第49条においては、理事のうちその5分の1を超えるものが欠けた場合は、1月以内に補充しなければならないとされているが、1名でも欠員が生じた場合には、速やかに補充が行われるのが望ましいこと。</li> </ul>
(2) 選任・任期	<p>6 <u>社会医療法人の場合は、親族等の占める割合が役員総数の3分の1を超えていないこと。</u></p> <p>1 役員の選任手続きが、定款又は寄附行為の定めに従い行われていること。</p> <p>2 選任関係書類が整備されていること。</p> <p>3 役員の任期は2年以内とすること。<u>なお、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間であること。</u></p> <p>4 任期の切れている役員がいないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員総会又は評議員会で適正に決議されていること。(モデル定款・寄附行為)</li> <li>・選任関係書類は、次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社員総会議事録又は評議員会議事録</li> <li>② 就任承諾書</li> <li>③ 履歴書</li> </ul> </li> <li>・医療法第46条の2第3項</li> </ul>	(2) 選任・任期	<p>1 役員の選任手続きが、定款又は寄附行為の定めに従い行われていること。</p> <p>2 選任関係書類が整備されていること。</p> <p>3 役員の任期が明確になっていること。<u>なお、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間であること。</u></p> <p>4 任期の切れている役員がいないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員総会又は評議員会で適正に決議されていること。(モデル定款・寄附行為)</li> <li>・選任関係書類は、次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社員総会議事録又は評議員会議事録</li> <li>② 就任承諾書</li> <li>③ 履歴書</li> </ul> </li> <li>・モデル定款・寄附行為では、役員の任期は2年とされている。</li> </ul>
(3) 適格性	<p>1 <u>自然人であること。</u></p>		(3) 適格性		

<p>(4) 代表者 (理事長)</p>	<p><u>2</u> 欠格事由に該当していないこと。<u>(選任時だけでなく、在任期間中においても同様である。)</u></p> <p>1 当該法人の代表権は、理事長にのみ与えられていること。</p> <p>2 理事長の職務履行ができない場合の規定が定款又は寄附行為に定められていること。</p> <p>3 理事長は医師又は歯科医師の理事の中から選出されていること。</p> <p>4 医師又は歯科医師でない理事のうちから理事長を選出する場合は都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長の認可を得ていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法第 46 条の 2 第 2 項</li> <li>・欠格事由 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 成年被後見人又は被保佐人</li> <li>② 医療法、医師法等医事に関する法令の規定により罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から起算して 2 年を経過しない者</li> <li>③ ②に該当する者を除くほか、禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は、執行を受けることがなくなるまでの者</li> </ul> </li> <li>・医療法人と関係のある特定の営利法人の役員が理事長に就任したり、役員として参画していることは、非営利性という観点から適当でないこと。</li> <li>・医療法第 46 条の 4 第 1 項</li> <li>・定款・寄附行為に明確に規定されていること。</li> <li>・医療法第 46 条の 4 第 2 項</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 1 項</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 1 項</li> <li>・医師、歯科医師でない理事のうちから選任することができる場合は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 理事長が死亡し、又は重度の傷病により理事長の職務を継続することが不可能となった際に、その子女が医科又は歯科大</li> </ul> </li> </ul>	<p>(4) 代表者 (理事長)</p>	<p><u>1</u> 欠格事由に該当していないこと。</p> <p>1 当該法人の代表権は、理事長にのみ与えられていること。</p> <p>2 理事長の職務履行ができない場合の規定が定款又は寄附行為に定められていること。</p> <p>3 理事長は医師又は歯科医師の理事の中から選出されていること。</p> <p>4 医師又は歯科医師でない理事のうちから理事長を選出する場合は都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長の認可を得ていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法第 46 条の 2 第 2 項</li> <li>・欠格事由 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 成年被後見人又は被保佐人</li> <li>② 医療法、医師法等医事に関する法令の規定により罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から起算して 2 年を経過しない者</li> <li>③ ②に該当する者を除くほか、禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は、執行を受けることがなくなるまでの者</li> </ul> </li> <li>・医療法人と関係のある特定の営利法人の役員が理事長に就任したり、役員として参画していることは、非営利性という観点から適当でないこと。</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 3 項</li> <li>・定款・寄附行為に明確に規定されていること。</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 4 項</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 1 項</li> <li>・医療法第 46 条の 3 第 1 項</li> <li>・医師、歯科医師でない理事のうちから選任することができる場合は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 理事長が死亡し、又は重度の傷病により理事長の職務を継続することが不可能となった際に、その子女が医科又は歯科大</li> </ul> </li> </ul>
--------------------------	---	--	--------------------------	---	--

<p>(5) 理事</p>	<p>5 理事長は、各理事の意見を十分に尊重し、理事会の決定に従って法人運営及び事業経営を行っていること。</p> <p>1 当該法人が開設する病院等（指定管理者として管理する病院等を含む）の管理者はすべて理事に加えられていること。</p> <p>2 管理者を理事に加えない場合は都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長の認可を得ていること。</p>	<p>学（医学部又は歯学部）在学中か、又は卒業後、臨床研修その他の研修を終えるまでの間、医師又は歯科医師でない配偶者等が理事長に就任しようとする場合</p> <p>② 次に掲げるいずれかに該当する医療法人</p> <p>イ 特定医療法人又は社会医療法人（平成 24 年 3 月 31 日までに特別医療法人を含む。）</p> <p>ロ 地域医療支援病院を営んでいる医療法人</p> <p>ハ 財団法人日本医療機能評価機構が行う病院機能評価による認定を受けた医療機関を営んでいる医療法人</p> <p>③ 候補者の経歴、理事会構成等を総合的に勘案し、適正かつ安定的な法人運営を損なうおそれがないと都道府県知事が認めた医療法人</p> <p>・医療法第 47 条第 1 項</p> <p>・医療法第 47 条第 1 項</p> <p>・管理者を理事に加えないことができる場合は、多数の病院等を開設する医療法人で、離島等法人の主</p>	<p>(5) 理事</p>	<p>5 理事長は、各理事の意見を十分に尊重し、理事会の決定に従って法人運営及び事業経営を行っていること。</p> <p>1 当該法人が開設する病院等の管理者はすべて理事に加えられていること。</p> <p>2 管理者を理事に加えない場合は都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長の認可を得ていること。</p>	<p>学（医学部又は歯学部）在学中か、又は卒業後、臨床研修その他の研修を終えるまでの間、医師又は歯科医師でない配偶者等が理事長に就任しようとする場合</p> <p>② 次に掲げるいずれかに該当する医療法人</p> <p>イ 特定医療法人又は特別医療法人</p> <p>ロ 地域医療支援病院を営んでいる医療法人</p> <p>ハ 財団法人日本医療機能評価機構が行う病院機能評価による認定を受けた医療機関を営んでいる医療法人</p> <p>③ 候補者の経歴、理事会構成等を総合的に勘案し、適正かつ安定的な法人運営を損なうおそれがないと都道府県知事が認めた医療法人</p> <p>・医療法第 47 条第 1 項</p> <p>・医療法第 47 条第 1 項</p> <p>・61 年局長通知</p> <p>・管理者を理事に加えないことができる場合は、多数の病院等を開設する医療法人で、離島等法人の主</p>
---------------	--	--	---------------	--	--

<p>(6) 監事</p>	<p>3 実際に法人運営に参画できない者が名目的に選任されていることは適当でないこと。</p> <p>1 理事、評議員及び法人の職員を兼任していないこと。 また、他の役員と親族等の特殊の関係がある者ではないこと。</p> <p>2 当該法人の業務及び財産の状況特に事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書について十分な監査が行われていること。</p> <p>3 監査報告書が作成され、<u>会計年度終了後3月以内に社員総会又は理事会に提出されていること。</u></p> <p>4 法人の適正な会計管理等を行う観点からも内部監査機構の確立を図ることが重要である。 また、病院又は介護老人保健施設等を開設する医療法人の監査については外部監査が行われることが望ましい。</p> <p>5 実際に法人監査業務を実施できない者が名目的に選任されていることは適当でなく財務諸表を監査しうる者が<u>選任されていること。</u></p>	<p>たる事務所から遠隔地にある病院等の管理者の場合である。</p> <p>・医療法第48条</p> <p>・<u>医療法第46条の4第3項第1号及び第2号</u></p> <p>・<u>医療法第46条の4第3項第3号</u></p> <p>・特に負債100億円以上の医療法人については、公認会計士又は監査法人による監査あるいは指導を受けることが望ましいこと。</p>	<p>3 評議員 (財団たる医</p>	<p>1 自然人であること。 2 理事の定数を超える数の評議</p>	<p>・<u>医療法第49条第2項</u></p>
<p>(6) 監事</p>	<p>3 実際に法人運営に参画できない者が名目的に選任されていることは適当でないこと。</p> <p>1 理事、評議員及び法人の職員を兼任していないこと。 また、他の役員と親族等の特殊の関係がある者ではないこと。</p> <p>2 <u>理事の業務執行の状況、当該法人の財産の状況特に当該法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書について十分な監査が行われていることが望ましいこと。</u></p> <p>3 <u>監査を行った場合には、監査報告書が作成され、社員総会、理事会及び評議員会に報告後、法人において保存されていることが望ましいこと。</u></p> <p>4 法人の適正な会計管理等を行う観点からも内部監査機構の確立を図ることが重要である。 また、病院又は介護老人保健施設等を開設する医療法人の監査については外部監査が行われることが望ましい。</p> <p>5 実際に法人監査業務を実施できない者が名目的に選任されていることは適当でなく財務諸表を監査しうる者が<u>選任すること。</u></p>	<p>(7) 評議員 (財団たる</p>	<p>・医療法第48条</p> <p>・特に負債100億円以上の医療法人については、公認会計士又は監査法人による監査あるいは指導を受けることが望ましいこと。</p>		

療法人)	員をもって組織すること (医療法第46条の2第1項ただし書の認可を受けた場合、3人以上)。 <u>3 次に掲げる者から選任されていること。</u> ① 医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者 ② 病院、診療所又は介護老人保健施設の経営に関し識見を有する者 ③ 医療を受ける者 ④ ①から③までに掲げる者のほか、寄附行為に定めるところにより選任された者 <u>4 当該法人の役員を兼任していないこと。</u> <u>5 評議員名簿を作成し、記載及び整理が適正に行われていることが望ましいこと。</u> <u>6 評議員としての職務を行使できない者が名目的に選任されていることは適当でないこと。</u> <u>7 社会医療法人の場合は、親族等の占める割合が評議員総数の3分の1を超えていないこと。</u>	・必ず選任する必要があること。 ・任期を定めることが望ましいこと。 ・医療法第49条の4第1項  ・医療法第49条の4第2項  ・医療法第42条の2第1項第3号	医療法人)		
4 社員 (社団たる医療法人) (1) 現員	1 社員名簿の記載及び整理が適正に行われていること。	・社員名簿の記載事項は次のとおり ① 氏名 ② 生年月日 (年齢) ③ 性別 ④ 住所 ⑤ 職業 ⑥ 入社年月日 (退社年月日)	3 社員 (社団たる医療法人) (1) 現員	1 社員名簿の記載及び整理が適正に行われていること。	・社員名簿の記載事項は次のとおり ① 氏名 ② 生年月日 (年齢) ③ 性別 ④ 住所 ⑤ 職業 ⑥ 入社年月日 (退社年月日)

	<p>2 社員は社員総会において法人運営の重要事項についての議決権及び選挙権を行使する者であり、実際に法人の意思決定に参画できない者が名目的に社員に選任されていることは適正でないこと。</p>	<p>⑦ <u>出資持分の定めがある医療法人の場合は出資額及び持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・<u>出資持分の定めがある医療法人の場合、相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</u></li> <li>・<u>医療法第42条の2第1項第2号</u></li> </ul>		<p>2 社員は社員総会において法人運営の重要事項についての議決権及び選挙権を行使する者であり、実際に法人の意思決定に参画できない者が名目的に社員に選任されていることは適正でないこと。</p>	<p>⑦ <u>出資額</u> ⑧ <u>持分の定めがある医療法人の場合は持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</li> </ul>
(2) 入社・退社	<p>3 <u>社会医療法人の場合は、親族等の占める割合が社員総数の3分の1を超えていないこと。</u></p> <p>1 社員の入社については社員総会で適正な手続きがなされ、承認を得ていること。</p> <p>2 社員の退社については定款上の手続きを経ていること。</p> <p>3 社員の入社及び退社に関する書類は整理保管されていること。</p> <p>4 <u>出資持分の定めがある医療法人の場合、社員の出資持分の決定、変更及び払戻しについては適正な出資額の評価に基づいて行われていること。</u></p>	<p>⑦ <u>出資持分の定めがある医療法人の場合は出資額及び持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・<u>出資持分の定めがある医療法人の場合、相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</u></li> <li>・<u>医療法第42条の2第1項第2号</u></li> </ul>	(2) 入社・退社	<p>1 社員の入社については社員総会で適正な手続きがなされ、承認を得ていること。</p> <p>2 社員の退社については定款上の手続きを経ていること。</p> <p>3 社員の入社及び退社に関する書類は整理保管されていること。</p> <p>4 社員の出資持分の決定、変更及び払戻しについては適正な出資額の評価に基づいて行われていること。</p>	<p>⑦ <u>出資額</u> ⑧ <u>持分の定めがある医療法人の場合は持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</li> </ul>
(3) 議決権	<p>1 <u>社員の議決権は各1個であること。</u></p>	<p>⑦ <u>出資持分の定めがある医療法人の場合は出資額及び持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・<u>出資持分の定めがある医療法人の場合、相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</u></li> <li>・<u>医療法第48条の4</u></li> <li>・<u>出資額や持分割合による議決権を与える旨の定款の定めは、その効力を有しない。</u></li> </ul>			<p>⑦ <u>出資額</u> ⑧ <u>持分の定めがある医療法人の場合は持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</li> </ul>
5 会議 (1) 開催状況	<p>1 開催手続きが、定款又は寄附</p>	<p>⑦ <u>出資持分の定めがある医療法人の場合は出資額及び持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・<u>出資持分の定めがある医療法人の場合、相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</u></li> <li>・<u>医療法第42条の2第1項第2号</u></li> </ul> <p>⑧ <u>持分の定めがある医療法人の場合は持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</li> </ul>	4 会議 (1) 開催状況	<p>1 開催手続きが、定款又は寄附</p>	<p>⑦ <u>出資額</u> ⑧ <u>持分の定めがある医療法人の場合は持分割合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年者でも、自分の意思で議決権が行使できる程度の弁別能力を有していれば（義務教育終了程度の者）社員となることができる。</li> <li>・相続等により出資持分の払戻し請求権を得た場合であっても、社員としての資格要件を備えていない場合は社員となることはできない。</li> </ul> <p>・招集権者である理事長が会議を招</p>

<p>(2) 審議状況</p>	<p>行為の定めに従って行われていること。</p> <p>2 社員総会、理事会及び評議員会（以下、「会議」という。）は定款又は寄附行為に定められた時期及び必要な時期に開催されていること。</p> <p>3 定款又は寄附行為の変更のための社員総会又は理事会、予算・決算の決定のための社員総会又は理事会の外社員総会及び理事会の議決を要する事項がある場合、その他事業運営の実態に即し、必要に応じて社員総会又は理事会が開催されていること。</p> <p>1 会議は定款又は寄附行為に定められた定足数を満たして有効に成立していること。</p> <p>2 定款又は寄附行為により会議の議決事項とされている事項について適正に決議されていること。</p>	<p>集していること。</p> <p>・<u>社員総会の議長は、社員総会において選任されていること。</u></p> <p>・<u>臨時社員総会及び評議員会は、会議を構成する社員又は評議員の5分の1以上から招集を請求された場合、20日以内に招集しなければならない。</u></p> <p>・会議の開催通知は期日の少なくとも5日前に文書で行われていること。</p> <p>・社員総会の議決事項</p> <p>① 定款の変更</p> <p>② 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</p> <p>③ 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</p> <p>④ 収支予算及び決算の決定</p>	<p>(2) 審議状況</p>	<p>行為の定めに従って行われていること。</p> <p>2 社員総会、理事会及び評議員会（以下、「会議」という。）は定款又は寄附行為に定められた時期及び必要な時期に開催されていること。</p> <p>3 定款又は寄附行為の変更のための社員総会又は理事会、予算・決算の決定のための社員総会又は理事会の外社員総会及び理事会の議決を要する事項がある場合、その他事業運営の実態に即し、必要に応じて社員総会又は理事会が開催されていること。</p> <p>1 会議は定款又は寄附行為に定められた定足数を満たして有効に成立していること。</p> <p>2 定款又は寄附行為により会議の議決事項とされている事項について適正に決議されていること。</p>	<p>集していること。</p> <p>・会議の開催通知は期日の少なくとも5日前に文書で行われていること。</p> <p>・社員総会の議決事項</p> <p>① 定款の変更</p> <p>② 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</p> <p>③ 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</p> <p>④ 収支予算及び決算の決定</p>
-----------------	---	---	-----------------	---	--



<p>(3) 記録</p>	<p>3 議決が定款又は寄附行為の定めに従って、有効に成立していること。</p> <p>4 議決には、<u>議長及び</u>その議案に対する利害関係者が加わっていないこと。</p> <p>5 議決権の委任については、書面により会議の構成員に対して適正に行われていること。</p> <p>1 会議開催の都度、議事録は正確に記録され、保存されていること。</p>	<p>⑤ 剰余金又は損失金の処理</p> <p>⑥ 借入金額の最高限度の決定</p> <p>⑦ 社員の入社及び除名</p> <p>⑧ 本財団の解散</p> <p>⑨ 他の医療法人との合併契約の締結</p> <p>⑩ その他重要な事項</p> <p>・財団たる医療法人の理事会の議決事項及び評議員会への諮問事項</p> <p>① 寄附行為の変更</p> <p>② 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</p> <p>③ 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</p> <p>④ 収支予算及び決算の決定</p> <p>⑤ 剰余金又は損失金の処理</p> <p>⑥ 借入金額の最高限度の決定</p> <p>⑦ 本財団の解散</p> <p>⑧ 他の医療法人との合併契約の締結</p> <p>⑨ その他重要な事項 (社団たる医療法人の場合に準用する。)</p> <p>・議事録記載事項は次のとおり</p> <p>① 開催年月日及び開催時刻</p> <p>② 開催場所</p>	<p>(3) 記録</p>	<p>3 議決が定款又は寄附行為の定めに従って、有効に成立していること。</p> <p>4 議決には、その議案に対する利害関係者が加わっていないこと。</p> <p>5 議決権の委任については、書面により会議の構成員に対して適正に行われていること。</p> <p>1 会議開催の都度、議事録は正確に記録され、保存されていること。</p>	<p>⑤ 剰余金又は損失金の処理</p> <p>⑥ 借入金額の最高限度の決定</p> <p>⑦ 社員の入社及び除名</p> <p>⑧ 本財団の解散</p> <p>⑨ 他の医療法人との合併契約の締結</p> <p>⑩ その他重要な事項</p> <p>・財団たる医療法人の理事会の議決事項及び評議員会への諮問事項</p> <p>① 寄附行為の変更</p> <p>② 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</p> <p>③ 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</p> <p>④ 収支予算及び決算の決定</p> <p>⑤ 剰余金又は損失金の処理</p> <p>⑥ 借入金額の最高限度の決定</p> <p>⑦ 本財団の解散</p> <p>⑧ 他の医療法人との合併契約の締結</p> <p>⑨ その他重要な事項 (社団たる医療法人の場合に準用する。)</p> <p>・議事録記載事項は次のとおり</p> <p>① 開催年月日及び開催時刻</p> <p>② 開催場所</p>
---------------	---	---	---------------	--	---

<p>II 業務 1 業務一般</p>	<p>1 定款又は寄附行為に記載されている業務が行われていること。</p> <p>2 定款又は寄附行為に記載されていない業務を行っていないこと。</p> <p><u>3 自ら病院等を開設することなく、指定管理者として公の施設である病院等を管理することのみを行うことはできないこと。</u></p> <p><u>4 社会医療法人の場合は、当該法人が開設する病院又は診療所のうち1以上（2以上の都道府県の区域において開設する場合は、それぞれの都道府県で1以上）のものが、その病院又は診療所の所在地の都道府県で救急医療等確保事業を行っていること。</u></p>	<p>③ 出席者氏名（定数） ④ 議案 ⑤ 議案に関する発言内容 ⑥ 議案に関する表決結果 ⑦ 議事録署名人の署名、署名年月日</p> <p>・業務を停止している事実があるときは、その措置について法人側の方針を確かめた上、その具体的な是正の方法について報告を求めるとともに、廃止する場合は速やかに定款変更等の手続きを行わせること。</p> <p>・定款等に記載されていない業務を行っている場合は、その措置について法人側の方針を確かめた上、必要に応じてその業務の中止を指導、定款変更等の手続きを行わせること。</p>	<p>II 業務 1 業務一般</p>	<p>1 定款又は寄附行為に記載されている業務が行われていること。</p> <p>2 定款又は寄附行為に記載されていない業務を行っていないこと。</p>	<p>③ 出席者氏名（定数） ④ 議案 ⑤ 議案に関する発言内容 ⑥ 議案に関する表決結果 ⑦ 議事録署名人の署名、署名年月日</p> <p>・業務を停止している事実があるときは、その措置について法人側の方針を確かめた上、その具体的な是正の方法について報告を求めるとともに、廃止する場合は速やかに定款変更等の手続きを行わせること。</p> <p>・定款等に記載されていない業務を行っている場合は、その措置について法人側の方針を確かめた上、必要に応じてその業務の中止を指導、定款変更等の手続きを行わせること。</p>
<p>2 附帯業務</p>	<p>1 附帯業務の経営により、医療事業等主たる事業の経営に支障を来たしていないこと。</p>	<p>・医療法第42条各号 ・その開設する病院、診療所及び介護老人保健施設の業務に支障のな</p>	<p>2 附帯業務</p>	<p>1 附帯業務の経営により、医療事業等主たる事業の経営に支障を来たしていないこと。</p>	<p>・医療法第42条第1項 ・その開設する病院、診療所及び介護老人保健施設の業務に支障のな</p>

い限り、定款又は寄附行為の定めるところにより、平成 19 年 3 月 30 日医政発第 0330053 号医政局長通知別表に掲げる業務の全部又は一部を行うことができる。

い限り、定款又は寄附行為の定めるところにより、以下の業務の全部又は一部を行うことができる。

- ① 医療関係者の養成又は再教育
- ② 医学又は歯学に関する研究所の設置
- ③ 疾病予防のために有酸素運動を行わせる施設の設置
- ④ 疾病予防のために温泉を利用させる施設の設置
- ⑤ ①～④までに掲げるもののほか、保健衛生に関する業務
- ⑥ 社会福祉法(昭和 26 年法律第 45 号) 第 2 条第 3 項第 2 号から第 6 号までに掲げる事業のうち厚生労働大臣が定めるもの又は同項第 7 号に掲げる事業の実施(平成 10 年 2 月厚生省告示第 15 号参照)

・「①から④までに掲げるもののほか、保健衛生に関する業務」とは、保健衛生上の観点から行政庁が行う規制の対象となる業務のすべてをいうものではなく、直接国民の保健衛生の向上を主たる目的として行われる業務であり、以下の業務について認められている(昭和 42 年 4 月 1 日医発第 432 号局長回答参照)。

- ① 薬局
- ② 施術所
- ③ 衛生検査所
- ④ 訪問看護ステーション

- ⑤ 介護福祉士養成施設
- ⑥ ケアハウス
- ⑦ ホームヘルパー養成研修事業
- ⑧ 難病患者等居宅生活支援事業  
(ホームヘルプ、短期入所事業)
- ⑨ 乳幼児健康支援一時預かり事業
- ⑩ 介護保険法(平成9年法律第123号)にいう訪問介護、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション、介護予防短期入所生活介護、介護予防短期入所療養介護、介護予防認知症対応型通所介護又は介護予防小規模多機能型居宅介護若しくは障害者自立支援法(平成17年法律第123号)にいう障害福祉サービス事業、相談支援事業、移動支援事業、地域活動支援センター又は福祉ホームにおける事業と連続して、又は一体としてなされる有償移送行為であって次に掲げるもの
  - ア 道路運送法(昭和26年法律第183号)第4条第1項の規定による一般旅客自動車運送事業
  - イ 道路運送法第43条第1項の規定による特定旅客自動車運送事業

<p>Ⅲ 管理</p> <p>1 人事管理</p> <p>(1) 任免関係</p> <p>(2) 労務関係</p>	<p>1 病院、診療所等の管理者の任免に当たっては、理事会の議決を経ていること。</p> <p>2 また、病院、診療所等の管理者以外の職員の任免に当たっても、理事会の審議を経ていることが望ましいこと。</p> <p>1 就業規則・給与規定・退職金規定が設けられていることが望ましいこと。</p> <p>2 職員の処遇が労働基準法等関係法令通知等に則して適正に行</p>		<p>Ⅲ 管理</p> <p>1 人事管理</p> <p>(1) 任免関係</p> <p>(2) 労務関係</p>	<p>1 病院、診療所等の管理者の任免に当たっては、理事会の議決を経ていること。</p> <p>2 また、病院、診療所等の管理者以外の職員の任免に当たっても、理事会の審議を経ていることが望ましいこと。</p> <p>1 就業規則・給与規定・退職金規定が設けられていることが望ましいこと。</p> <p>2 職員の処遇が労働基準法等関係法令通知等に則して適正に行</p>	<p>ウ <u>道路運送法第78条第3号又は第79条の規定による家用有償旅客運送等</u></p> <p>⑪ <u>介護保険法にいう居宅サービス事業、居宅介護支援事業、介護予防サービス事業、介護予防支援事業、地域密着型サービス事業、地域支援事業及び保健福祉事業のうち平成18年3月31日医政発第0331001号局長通知別添2において「保健衛生に関する業務」とされているもの</u></p> <p>⑫ <u>助産所</u></p> <p>⑬ <u>歯科技工所</u></p> <p>⑭ <u>福祉用具専門相談指定講習</u></p> <p>⑮ <u>就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号)による児童福祉法上の保育所として認可を受けた施設で認定こども園を営する事業</u></p>
---	--	--	---	--	---

<p>2 資産管理</p>	<p>われていること。</p> <p>3 職員の資質向上を図るため、職員研修について具体的計画が立てられていることが望ましいこと。</p> <p>1 基本財産と運用財産とは明確に区分管理されていること。</p> <p>2 法人の所有する不動産及び運営基金等重要な資産は基本財産として定款又は寄附行為に記載することが望ましいこと。</p> <p>3 不動産の所有権又は賃借権については登記がなされていること。</p> <p>4 基本財産の処分又は担保の提供については定款又は寄附行為に定められた手続きを経て、適正になされていること。</p> <p>5 医療事業の経営上必要な運用財産は、適正に管理され、処分がみだりに行われていないこと。</p> <p>6 現金は、郵便官署、銀行、信託会社に預け入れ若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。</p> <p>7 土地、建物等を賃貸借している場合は適正な契約がなされていること。</p>	<p>・平成 19 年 3 月 30 日医政発第 0330049 号医政局長通知</p> <p>・所定の手続きを経ずに、処分又は担保に供している基本財産がないことが登記簿謄本により確認されること。</p> <p>・モデル定款・寄附行為</p> <p>・平成 19 年 3 月 30 日医政発第 0330049 号医政局長通知</p> <p>・賃貸借契約期間は医業経営の継続性の観点から、<u>長期間</u>であることが望ましいこと。</p> <p>また、契約期間の更新が円滑にできるよう契約又は確認されていることが望ましいこと。</p>	<p>2 資産管理</p>	<p>われていること。</p> <p>3 職員の資質向上を図るため、職員研修について具体的計画が立てられていることが望ましいこと。</p> <p>1 基本財産と運用財産とは明確に区分管理されていること。</p> <p>2 法人の所有する不動産及び運営基金等重要な資産は基本財産として定款又は寄附行為に記載することが望ましいこと。</p> <p>3 不動産の所有権又は賃借権については登記がなされていること。</p> <p>4 基本財産の処分又は担保の提供については定款又は寄附行為に定められた手続きを経て、適正になされていること。</p> <p>5 医療事業の経営上必要な運用財産は、適正に管理され、処分がみだりに行われていないこと。</p> <p>6 現金は、郵便官署、銀行、信託会社に預け入れ若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。</p> <p>7 土地、建物等を賃貸借している場合は適正な契約がなされていること。</p>	<p>・<u>61 年局長通知</u></p> <p>・所定の手続きを経ずに、処分又は担保に供している基本財産がないことが登記簿謄本により確認されること。</p> <p>・モデル定款・寄附行為</p> <p>・<u>61 年局長通知</u></p> <p>・賃貸借契約期間は医業経営の継続性の観点から、<u>10 年以上</u>であることが望ましいこと。</p> <p>また、契約期間の更新が円滑にできるよう契約又は確認されていることが望ましいこと。</p>
---------------	---	--	---------------	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃借料は近隣の土地、建物等の賃借料と比較して著しく高額でないこと。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃借料は近隣の土地、建物等の賃借料と比較して著しく高額でないこと。</li> <li>・医療法施行規則第30条の34  <u>資本</u></li> <li>・自己資本比率＝<math>\frac{\text{自己資本}}{\text{資産}} \times 100</math></li> <li>・左記ただし書に該当する場合であっても、自己資本比率を充足していることが望ましいこと。</li> </ul>
<p>3 会計管理 (1) 予算</p>	<p><u>8 医療法人とその理事長との間で取引をする場合、立場を異にする同一人が利益相反取引を行うので、特別代理人を選任すること。</u></p> <p>1 予算は定款又は寄附行為の定めに従い適正に編成されていること。</p> <p>2 予算が適正に執行されていること。</p> <p>なお、予算の執行に当たって、変更を加えるときは、あらかじめ社員総会又は理事会の同意を得ていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地、建物の賃貸借、売買の場合</li> <li>・個人立病院等から医療法人になる時の負債承継の場合</li> </ul>	<p>3 会計管理 (1) 予算</p>	<p><u>8 病院又は介護老人保健施設を開設する医療法人は自己資本比率20%以上を常時確保していること。ただし、医療法人の設立又は合併後、概ね1年を経過した後において、当該医療法人の開設するすべての病院及び介護老人保健施設について、これらの用に供される土地又は建物のいずれかを所有している場合はこの限りでないこと。</u></p> <p>1 予算は定款又は寄附行為の定めに従い適正に編成されていること。</p> <p>2 予算が適正に執行されていること。</p> <p>なお、予算の執行に当たって、変更を加えるときは、あらかじめ社員総会又は理事会の同意を得ていること。</p>	
<p>(2) 会計処理</p>			<p>(2) 会計処理</p>	<p><u>1 病院又は介護老人保健施設を開設する医療法人にあつては、それぞれ原則として「病院会計準則」又は「介護老人保健施設会計・経理準則」により処理するものとする。</u></p> <p><u>診療所のみを開設する医療法</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年8月19日医政発第0819001号厚生労働省医政局長通知及び平成12年3月31日老発第378号厚生省老人保健福祉局長通知</li> </ul>

	<p>1 会計責任者が置かれていることが望ましいこと。</p> <p>2 現金保管については、保管責任が明確にされていること。</p> <p>3 <u>剰余金を配当してはならないこと。</u></p>	<p>・医療法第54条</p> <p>(注) 剰余金の配当をした場合は、<u>20万円以下の過料に処せられること。(医療法第76条第3号)</u></p>		<p><u>人にあつては、「病院会計準則」に準じて処理することが望ましいものであること。ただし、複数の診療所を開設するものにあつては、原則として「病院会計準則」に準じて会計処理するものとする。</u></p> <p>2 会計責任者が置かれていることが望ましいこと。</p> <p>3 現金保管については、保管責任が明確にされていること。</p>	
(3) 債権債務の状況	<p>1 借入金は、事業運営上の必要によりなされたものであること。</p> <p>2 借入金は社員総会、理事会の議決を経て行われていること。</p> <p>3 借入金は全て証書で行われていること。</p> <p>4 債権又は債務が財政規模に比し過大になっていないこと。</p>	<p>・モデル定款・寄附行為</p> <p>・法人がその債務につきその財産をもって完済することができなくなった場合には、理事又は清算人は、<u>直ちに破産手続の申立てをしなければならないこと。</u></p> <p>(注) <u>破産手続開始の申立てを怠った場合は、20万円以下の過料に処せられること。(医療法第76条第7号)</u></p>	(3) 債権債務の状況	<p>1 借入金は、事業運営上の必要によりなされたものであること。</p> <p>2 借入金は社員総会、理事会の議決を経て行われていること。</p> <p>3 借入金は全て証書で行われていること。</p> <p>4 債権又は債務が財政規模に比し過大になっていないこと。</p>	<p>・モデル定款・寄附行為</p> <p>・<u>病院又は介護老人保健施設を開設する医療法人の自己資本比率についてはⅢの2の8を参照</u></p>
(4) 会計帳簿等の整備状況	<p>1 会計帳簿が整備され、証ひょう書類が保存されていること。</p> <p>2 預金口座、通帳は法人名義になっていること。</p>		(4) 会計帳簿等の整備状況	<p>1 会計帳簿が整備され、証ひょう書類が保存されていること。</p> <p>2 預金口座、通帳は法人名義になっていること。</p>	



<p>(5) 決算及び財務諸表</p>	<p>1 決算手続きは、定款又は寄附行為の定めに従い、適正に行われていること。</p> <p>2 決算と予算との間で、大幅に違う科目がある場合は、その原因が究明され、必要な改善措置がなされていること。</p> <p>3 <u>事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書が整備され、保存されていること。</u></p> <p>4 決算書（案）は社員総会又は理事会に諮る前に、監事の監査を経ていること。</p> <p>5 監査報告書は社員総会又は理事会に報告後、法人において保存されていること。</p> <p>6 <u>事業報告書等決算に関する書類を各事務所に備えておき、社員若しくは評議員又は債権者から閲覧の請求があった場合は、正当な理由がある場合を除き、閲覧に供しなければならないこと。</u></p> <p>7 決算の届出が毎会計年度終了後<u>3月以内</u>になされていること。</p>	<p>・<u>医療法第51条第1項</u></p> <p>・<u>医療法第51条第2項</u></p> <p>・<u>医療法第51条の2</u> (注) 備え付けを怠った場合、記載すべき事項を記載していない場合若しくは虚偽の記載をした場合又は正当な理由なく閲覧を拒否した場合は、20万円以下の過料に処せられること。(医療法第76条第2号)</p> <p>・<u>医療法第52条第1項</u> (注) 届出をしない場合又は虚偽の届出をした場合は、20万円以下の過料に処せられること。(医療法第76条第1号の2)</p>	<p>(5) 決算及び財務諸表</p>	<p>1 決算手続きは、定款又は寄附行為の定めに従い、適正に行われていること。</p> <p>2 決算と予算との間で、大幅に違う科目がある場合は、その原因が究明され、必要な改善措置がなされていること。</p> <p>3 財産目録、貸借対照表及び損益計算書が整備され、保存されていること。</p> <p>4 決算書（案）は社員総会又は理事会に諮る前に、監事の監査を経ていること。</p> <p>5 監査報告書は社員総会又は理事会に報告後、法人において保存されていること。</p> <p>6 決算の届出が毎会計年度終了後<u>2月以内</u>になされていること。</p> <p>7 <u>特定医療法人、特別医療法人及び国・県から運営費補助を受けている医療法人については、決算の概要の広報、関係者の求めに応じた決算書の閲覧などを行うことが望ましいこと。</u></p>	<p>・<u>医療法第51条第1項</u></p>
---------------------	--	--	---------------------	---	---------------------------

<p>(6) その他</p>	<p>1 病院、介護老人保健施設等の患者又は入所者から預かっている金銭は別会計で経理されるとともに、適正に管理がなされていることが望ましいこと。</p> <p>2 法人印及び代表者印については、管理者が定められているとともにその管理が適正になされていること。</p>		<p>(6) その他</p>	<p>1 病院、介護老人保健施設等の患者又は入所者から預かっている金銭は別会計で経理されるとともに、適正に管理がなされていることが望ましいこと。</p> <p>2 法人印及び代表者印については、管理者が定められているとともにその管理が適正になされていること。</p>	
<p>4 登記</p>	<p>1 当該法人が登記しなければならない事項について登記がなされていること。</p> <p>2 理事長のみの登記がなされていること。</p> <p>3 登記事項の変更登記は法定期間内に行われていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法第 43 条</li> <li>・組合等登記令</li> <li>・登記事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 目的及び業務</li> <li>② 名称</li> <li>③ 事務所</li> <li>④ 代表権を有する者の氏名、住所及び資格</li> <li>⑤ 存立時期又は解散の事由を定めたときは、その時期又は事由</li> <li>⑥ 資産の総額</li> </ul> </li> </ul> <p><u>(注) 登記を怠った場合又は不実の登記をした場合は、20 万円以下の過料に処せられること。(医療法第 76 条第 1 号)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長の任期満了に伴い再任された場合にあつては、変更の登記が必要であること。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登記期間 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 主たる事務所（2 週間以内）</li> <li>② 従たる事務所（3 週間以内）</li> </ul> </li> </ul>	<p>4 登記</p>	<p>1 当該法人が登記しなければならない事項について登記がなされていること。</p> <p>2 理事長のみの登記がなされていること。</p> <p>3 登記事項の変更登記は法定期間内に行われていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法第 43 条</li> <li>・組合等登記令</li> <li>・登記事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 目的及び業務</li> <li>② 名称</li> <li>③ 事務所</li> <li>④ 代表権を有する者の氏名、住所及び資格</li> <li>⑤ 存立時期又は解散の事由を定めたときは、その時期又は事由</li> <li>⑥ 資産の総額</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長の任期満了に伴い再任された場合にあつては、変更の登記が必要であること。</li> <li>・<u>資産の総額は毎会計年度終了後、変更の登記が必要であること。</u></li> </ul> <p><u>(注) 変更の登記をしない場合は 20 万円以下の過料に処せられること。(医療法第 76 条)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登記期間 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 主たる事務所（2 週間以内）</li> <li>② 従たる事務所（3 週間以内）</li> </ul> </li> </ul>

<p>5 公告</p> <p>IV その他</p> <p>1 必要な手続の督促</p>	<p>4 変更登記後の登記済報告書はその都度、都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長に提出されていること。</p> <p>1 清算人が、債権者に対し債権の申出の催告を行う場合又は破産手続開始の申立てを行う場合の公告は定款又は寄附行為に定められた方法で適正に行われていること。</p> <p>1 認可申請又は届出にかかる書類が提出されない場合、都道府県は当該医療法人に対し必要な手続の督促を行うこと。</p>	<p>③ 資産の総額は毎会計年度終了後2月以内</p> <p>・<u>資産の総額（貸借対照表の純資産額）は毎会計年度終了後、変更の登記が必要であること。</u></p> <p>・<u>医療法施行令第5条の12</u></p> <p>・モデル定款・寄附行為</p> <p>(注) 公告を怠った場合又は不実の公告をした場合は、20万円以下の過料に処せられること。(医療法第76条第8号)</p> <p>・督促又は勧告等によっても指導目的が達されない場合は、行政処分が行われることになる。</p> <p>① <u>法令等の違反に対する措置（医療法第64条第1項及び第2項）</u></p> <p>② <u>聴聞手続(行政手続法第13条、第15条、第24条)</u></p> <p>③ <u>設立認可の取消（医療法第65条）</u></p>	<p>5 公告</p>	<p>4 変更登記後の登記済報告書はその都度、都道府県知事又は主たる事務所の所在地を管轄する地方厚生局長に提出されていること。</p> <p>1 公告は定款又は寄附行為に定められた方法で適正に行われていること。</p>	<p>③ 資産の総額は毎会計年度終了後2月以内</p> <p>・<u>医療法施行令第5条の7</u></p> <p>・モデル定款・寄附行為</p>
---	---	--	-------------	---	---